

理事長所信

須山裕史

1 未来のまちのために

2 まちの未来を語れるのは青年の特権である。このまちを愛し、市民と共に明るい豊かな
3 社会を創りあげていく。青年は大きな夢を掲げ、その夢の実現のために全力で知恵と汗を
4 出し尽くすべきである。

5 青年会議所運動は人間力、指導力、社会開発を目的とした運動を推進し、青年としてま
6 ちの発展のために社会的使命を全うしていくことである。一人ひとりが自己研鑽を重ねて
7 成長し、まちを牽引するリーダーになることで運動を力強く推進することができる。

8 青年会議所は40歳までの限られた時間の中で、様々な活動を通じ、社会では経験でき
9 ない沢山の機会を得ることができる。JAYCEEとして何事にも真摯に挑戦することを
10 繰り返し、自己を変革する確固たる信念をもって行動に移していかなければならない。

11 我々は、「人財育成」「自己成長」に繋がる1年とし、未来のまちのために力強くJC運
12 動を推し進めていく。

13 未来を担う人財の発掘

14 志を同じくする仲間がひとりでも多く集えば、まちづくりの運動をさらに伝播すること
15 ができる。同じ目標に向かって進む仲間が増え、新たな刺激や気付きを得ることで組織の
16 活性化を図り、未来のまちを共想し合い、行動に移していくことで理想とするまちづくり
17 に繋げていきたい。

18 JCから得ることのできる多くの出会いと学びを自分の言葉で伝え、未来に繋がる同志
19 をひとりでも多く発掘していくために、日本JCからの支援、各LOMとの連携、卒業さ
20 れた先輩諸兄と交流を深めるなど、様々な手法を模索し実践に移す。

21 我々は、未来を担う人財をメンバー全員の力で発掘していく。

22 人財の創出

23 魅力あるまちへと発展させていくためには、JAYCEEだけでなく、市民一人ひとり
24 の成長が必要であることは間違いない。市民協働のまちづくりは、市民の当事者意識を高
25 め、社会を変えていく人財を創出することができる。

26 明るい豊かなまちづくりを目的とするJCは、市民のニーズを的確に把握し、多くの市
27 民が行動を起こしていく契機となる事業を行わなければならない。

28 我々は、JCだからこそできる、市民の心の琴線に触れる事業を展開していく。

37

38

39 夢描くまちのたからの育成

40 将来の目標を明確にもち、その目標に向かって誠実に行動を起こしていくことで、夢を
41 叶えることができる。その経験が希望に満ち溢れた実行力のある人財へと成長させる。

42 わんぱく相撲うつのみや場所やストリートダンス選手権は、勝利に向かい努力すること
43 の大切さ、挑戦していく勇気を育んでいる。勝つ喜び、負ける悔しさ、そして相手を思い
44 やる心を得ることができる。より幅広く子どもたちが参加できる様に、今までの事業の枠
45 にとらわれない新たな手法を模索していくことが必要ではないだろうか。

46 我々は、「努力・礼節・思いやりの心」をもつ、自信と希望に満ち溢れたまちのたからを
47 育成していく。

48

49

50 効果的な運動の波及

51 まちづくりを進めていくうえで、効果的な運動を更に波及していく必要がある。

52 近年、宇都宮市でまちづくりに取り組む団体は、行政に限らず多種多様な団体があり、
53 個人でもボランティアに参画する市民が多く見られるようになった。規模や手法は異なっ
54 ても、まちづくりを志す市民が増えることで、今以上に市民協働の運動に広がり生まれ
55 てくるだろう。

56 我々は、多くの団体、個人と連携し、行政と共に運動を展開していくことでまちを輝か
57 せる人財を育成していく。

58

59

60 まちを誇れる人財

61 今日の平和な日常を過ごすことができるのは、焦土と化した戦後から先人たちの復興に
62 対する弛まぬ努力があったからだ。

63 我が国の歴史や、まちの成り立ちを今一度考えてみてはどうだろうか。歴史を深く知る
64 ことで、誇りを持てる市民を増やすことができる。

65 郷土愛の醸成に繋がる取り組みを調査・研究し、発信していく。まちに誇りを持った市
66 民が増えればまちの未来は明るい。

67 我々は、まちに誇りを持つ人財を育成していく。

68

69

70 宮まつりがはじまり40年

71 1976年に宇都宮JC創立10周年記念事業として始まり、本年40周年を迎える「ふ
72 るさと宮まつり」は、市民・企業・行政が一体となり、まちに愛される事業として発展を

73 してきた。まちへの経済効果はもちろんのこと、一人ひとりの心の中に宮まつりが存在し、
74 事業への期待は色褪せることはない。

75 次の10年を見据え、これからも市民のための宮まつりにしていくためには、過去39
76 年の検証を行うと共に、節目としての記録を残していきたい。

77 また、変わらず続くテーマ「であいとふれあいの広場」の原点に立ち返り、参加者と観
78 客がより身近に感じる企画・運営を行う。

79 我々は、まちが一体となった「ふるさと宮まつり」を実施していく。

80

81

82 宇都宮青年会議所の歩み

83 本年で設立49年目を迎える宇都宮JCは、今日まで明るい豊かな社会の実現に向け、
84 地道に努力を積み重ねてきた。

85 また、脈々と受け継がれた創始の精神を損なうことなく、来年50周年の節目を迎える
86 にあたり、今よりもさらに輝き続けるためには何が必要だろうか。これまでの48年の歴
87 史を検証し、これからの運動をどのように展開していくか考えていかなければいけない。

88 我々は、過去の運動を検証し、宇都宮JCの未来を考えていく。

89

90

91 全国大会主管立候補

92 1996年全国大会長野大会で、主管としての夢を叶えることができず18年が経過し
93 た。1万人以上が一堂に会する日本JCの全国大会を主管することは、まちの活性化に繋
94 がり、市民意識の変革ができることは間違いない。

95 近年、宇都宮JCは全国大会招致に向けて準備を進めてきた。招致実現を果たすために
96 は、日本JCや各LOMとの連携を深めていく必要がある。また、知識を深め意識を高揚
97 していかなければならない。

98 そして、誇れる理念を掲げ、まちの魅力を余すことなくアピールしていく。全国大会を
99 主管することができれば、宇都宮の魅力を全国へ発信することができ、まちの価値をさら
100 に向上させることができる。

101 我々は、全国大会主管に向けてLOM一丸となり準備を進めていく。

102

103

104 積極的变化

105 人生の中で成長する機会は幾度となく訪れる。しかし、積極的に自分自身が行動を起こ
106 していかなければ、成長の機会を逸してしまう。

107 JCでは、諸大会に参加することで新たな気づきを得られる事業を体感することができ
108 る。メンバー各自がそこで得た経験を、更なる成長の機会に繋げていく。

109 また、自身の視野や考え方を広げる機会の一つとして出向がある。各地のメンバーと交
110 流を深め、共に運動を推進することで新たな価値観を得ることができる。出向者には、今
111 後の宇都宮 J C の運動に広がりが出るよう力を発揮してもらいたい。

112 我々は、成長の機会を逃すことなく積極的に行動を起こし、自己を変革していく。

113

114

115 進化を遂げる組織運営

116 公益法人は、透明性があり、厳格な組織運営をしていかなければならない。また、社会
117 から大きな信頼を得るためには、より公益性の高い事業の構築が求められることになる。

118 そのためには、物事を決めていくプロセスを重視し、定款・諸規程を遵守しなければな
119 らない。

120 我々は、組織の役割を認識し、進化を遂げる組織運営を行っていく。

121

122

123 結びに

124 大きな夢を掲げ、J A Y C E E として誠実に、一日一日を大切に過ごし、限られた時間
125 の中で自己研鑽をする。人を磨くことができるのは、人しかない。メンバー同士が切磋琢
126 磨し、まちのために力を発揮できるリーダーとなれるよう、繰り返し自己成長していく。

127 この時代に生まれ、このまちに育ち、J C と出会ったのであればリーダーとしての資質
128 を高め、青年の力でまちの未来を切り拓くべきだ。

129

130 『夢なきものに理想なし、理想なきものに計画なし、計画なきものに実行なし、実行なき
131 ものに成功なし、故に夢なきものに成功なし』 吉田松陰

132

133 我々は、本年を「人財育成」「自己成長」の1年と位置付け、J C 運動を力強く展開して
134 いくことをここに誓い、真摯に挑戦していく。

135